

第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和5年2月24日(金) 午前10時から午前11時20分まで

2 会場 静岡県立吉田特別支援学校会議室

3 参加者

○委員

【保護者】	畑 和幸 様	P T A会長
【地域住民】	桐田 不二雄 様	吉田町片岡区自治会長
【学校運営に資する活動者】	藁科 知行 様	駿遠学園管理組合園長
【学識経験者】	横山 孝子 様	浜松学院大学教授
【その他】	栗林 均 様	社会福祉法人一羊会理事長

○学校

校長	稲葉 敏光	副校長	池上 千穂	事務長	藤田 信義
教頭	植田記久乃	分教室教頭	小澤真由美	小学部主事	井鍋 恭子
中学部主事	斎藤 香	高等部主事	田中 康暁	肢体訪問統括	山本 由希
教務主任	和田加恵子	コーディネーター	篠原 小春	進路指導主事	吉田 欣也

4 議事録

*司)司会 委)委員 学)学校職員

(1) 校長挨拶

今年度は、コロナ禍で制限がある中ではあったが、地域の環境を生かし、教育活動を少しずつ元に戻していくよう取り組んできた。その中で成果を多く感じている。本校は今年度で8年目であったが、9年目、10年目に向けて教員の代替わりも進んでいくと考えている。本校の今後の在り方をしっかり考えていきたい。

(2) 協議

ア 令和4年度学校経営計画について(まとめ)

学)【本校より今年度の学校経営の報告】

委) どの項目も達成率が高い。指導要領、カリキュラムマネジメント、社会に開かれた教育課程の観点が入っており、信頼できる評価であると感じる。また、児童生徒にも可能な限りアンケートを取っている取組が良い。次年度、どんな点を継いでいくのか、また改善していくのかを教えてください。

学) 令和5年度は、目標具現化の柱に「教育環境の整備と教員の対応力向上」「たくましい教員集団づくり」の2点を加える。教育環境には人的なことも含まれる。様々な事案に組織として対応できるようにしたい。そのために、週に1日14:10下校を設け、児童生徒のことについて十分な話し合いができるようにする。また、分掌業務の見直し、明確化を行う。そして、12年間を通してどんな子を育てていくかという願う姿を、学年ごとにもう一度はっきりさせて取り組んでいく。

委) ホームページは情報発信に効果的だと思う。もう少し更新できるとよいのでは。

- 学) 来年度は更新の仕組みを変えていくので、スムーズな更新になると考えている。
- 委) 先生方が子どものことをたくさん話し合っていることが文面から感じられる。若手の先生方が指導について「これでいいんだ」「ここを改善しよう」など思えるだろう。
- 委) 来年度の説明に「願う姿を明確にする」とあったが、本人の願いとどうすり合わせていくのかというのは、実はとても難しい。意思決定の支援も大切にしてほしい。
- 学) 自己選択、自己決定についてはどの学年であっても大切に考えていく。来年度は「自己実現を図るためのキャリア教育の充実」の項目に具体的な方策を盛り込んでいる。
- 委) 12年間のつながりの中で育っていく道筋を整えている途中であることがうかがえる。つながりという点では、就学前施設からの移行書類には「3年後に願う姿」を記入する部分があるが、入学前にはそこまで考えられない家庭が多い。どう考えたらよいか。
- 学) その通りだと思う。「先のことなのでわからない」と書いてくれて良い。その思いを受け止め、寄り添い、一緒に考えていく姿勢でいる。
- 委) 挨拶が少なくなっているとのコメントがいくつかある。地域でも挨拶運動を行っているので協力できることがあれば応援したい。
- 学) コロナ禍にあり学校内のコミュニケーションが減っていることも要因の一つだと考えている。教員間で話ができる機会をたくさん持っていきたい。
- 学) 【分教室より今年度の学校経営の報告】
- 委) キャリアパスポートに関しては、目的を明確に、よりシンプルにしていくと良い。また、子どもに分かる言葉で示せると良い。
- 学) 子どもに向けての意味をもう一度考え直し、児童生徒の実態に合ったものになるよう検討していきたい。
- 委) 分教室は職員が少ないが、本校では味わえない仕事量、質が経験できる場。小さい組織ならではの良さを見つけてモチベーションを上げていくと良い。
- イ 令和4年度コミュニティ・スクールの取組について (まとめ)
- 委) 着実に成果がある。自然な形で地域の方が入ってきている。言葉の発信のない子どもの表情や視線などの反応をコミュニケーションとして感じてくれているという点は、啓発にもなっていることの表れだろう。
- 委) 地域から講師が派遣できるのは光栄。高等部生徒に向けて、地域の文化財等について知ってもらおうミニ講座のようなものも考えている。

(3) 報告

学) 【進路指導の状況】

- 委) 進路先がバラエティに富んでいる。12年を通して「こうなりたい」という思いや願いを育ててきているからこそ、個に合った進路になっているのだろう。

(4) 次年度に向けて

令和5年度学校経営の方向性について

※(2)アの質疑応答の中で説明

(5) 閉会

